

令和元年度 学校評価総括表

奈良県立香芝高等学校

<p>学校運営方針</p>	<p>本校の教育は、「元気いっぱい 一步前へ」をスローガンに、「明るく、素直で、チャレンジ精神にあふれる生徒」の育成を目指し、「和敬・創造・錬磨」の校訓の精神に基づき、生徒の学ぶ意欲を高め、魅力と活力のある学校作りを行うために、教職員が一丸となって教育活動に取り組む。                  「和敬」・・・個人の尊厳を重んじ、礼節を尊び、常に和敬の心をもって自他の向上に努める人間を育てる。                  「創造」・・・学業に励み、真理を希求し、勤労と責任を重んじ、日々たゆまず努力し、新たな文化の創造に努める人間を育てる。                  「錬磨」・・・常に心身の錬磨に励み、高い知性と健全な身体を培い、強固な意志とたくましい実践力をもった人間を育てる。</p>	<p>総合評価  <b>B</b></p>
---------------	---	-------------------------------

<p>目指す生徒像</p>	<p>明るく、素直で、チャレンジ精神にあふれる生徒</p>
---------------	-------------------------------

平成30年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的方策	自己評価結果※	
<p>○ 観点別評価の実施に伴い、各教科で授業改善・工夫等の取組が進んだ。今後、さらに指導と評価の一体化を目指した取組を行っていく。</p>	<p>【1】 個性・能力・可能性を伸ばすキャリア教育の推進</p>	<p>① 学習目標の明確化により、獲得すべき学力を充実させる。                  ② シラバスの活用による計画的な学習指導により、家庭学習の定着を図る。                  ③ 主体的な進路選択に向けて、学ぶこと・働くことの意義を理解させる。</p>	B	B
<p>○ 「次世代の教育情報化推進事業」の指定研究により、教員の指導力の向上が見られた。今後、ICT教育の推進を含め、情報活用能力の更なる向上を目指したい。</p>	<p>【2】 自他の生命を尊重する心の育成と、規範意識の向上</p>	<p>① 爽やかな挨拶とマナーの向上、美しい制服の着こなしを定着させる。                  ② ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等を通して、主体性と協調性を身に付け、社会の一員として、社会に貢献する意欲と責任ある態度を育成する。</p>	A	A
<p>○ 学校行事への積極的な参加が見られた。今後は、ボランティア活動等の他の活動への参加も促したい。</p>	<p>【3】 たくましい心身の育成</p>	<p>① 運動に主体的に取り組む姿勢と、自らの健康の保持増進への実践力を育成する。                  ② スクールカウンセラーを活用し、生徒の悩みに対応する。</p>	B	B
	<p>【4】 教職員の協力による教育力の向上</p>	<p>① 観点別評価の充実を図り、教育における情報の活用能力及びICT活用能力の向上を推進する。                  ② 積極的な情報発信と情報公開を行う。</p>	A	A

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策	評価指標	自己評価 結果 ※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等
学習	観点別評価の充実	観点別評価規準表を作成し、指導と評価の一体化を図り、評価結果を指導に生かす。	保護者アンケートの「学習指導に熱心に取り組んでいる」で、肯定的な意見8割を目指す。	A	目標数値に到達した。数年同じ目標で取り組んできた成果が出てきたように思われる。(アンケート結果:79.7%)	更なる学習指導の質の向上を目指して取り組みたい。
	思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善	新テストに対応するため、学力の三要素を踏まえた授業の展開を目指す。	生徒アンケートの「授業に対する充実感」で、肯定的な意見8割を目指す。	B	もう少し興味関心を引くような工夫が必要である。(アンケート結果67.0%)	各HRに設置していただいたICT機器も有効に使った授業の展開を目指したい。
	集団行動の意義を理解し、実践するとともに、健康・安全に留意し、行動することができる生徒の育成	学校生活や社会生活において集団のなかで健康・安全に留意し、秩序正しく主体的に行動できるよう指導する。また、体育大会の計画、運営、実施に生徒が主体的に関わるよう働きかける。	健康診断後に受診を指示された生徒の、受診率を前年度より1割増を目指す。体育大会後にアンケートを実施する。その中で、計画、運営、実施のいずれかに、主体的に活動できたと回答する生徒9割以上を目指す。	C	受診勧告書を各学期に担任を通じて保護者に配付。受診率は1割には達しておらず、昨年より視力が若干向上したが、歯科・尿検査については、ほぼ同様であった。体育大会について、6割程度の生徒がよかったと感じていたが、出場回数にばらつきがあった。	受診勧告書を渡したあと、回収できていない生徒を個人的に呼び出し、確認および再度受診を促す。体育大会の各種目の出場人数調整を行う。
生活指導	基本的な生活習慣の確立	学校生活及び通学時において、制服の着こなし指導を徹底する。	生徒アンケートの、「身だしなみを正しくしている」と答えた生徒が8割以上である。	A	アンケートでは9割以上が正しくしていると答えたが、細かな部分や女子のリボン忘れも多いため、身だしなみに対する意識をより高めたい。	1年次の着こなし講座を始め、正しい着こなし方の意識を高め、継続的な啓発をしていく。
	生徒理解と家庭との連携	欠席・遅刻における家庭との連絡を徹底して、家庭と協同した指導を行う。	保護者アンケートの「生活指導面で適切に指導している」で、肯定的な意見9割を目指す。	A	アンケートでは9割弱であったが、欠席・遅刻なしの日が少なく、定期考査中でも遅刻が見られた。	欠席・遅刻をする生徒には、家庭との連絡を徹底してもらい、保護者と連携して改善を図っていく。
	規範意識の向上	教職員からの積極的な声かけや、生徒会等と連携を行い、自発的に挨拶ができる生徒を育てる。	生徒アンケートの「挨拶を正しくできている」と答えた生徒が9割以上である。	A	アンケートでは9割以上ができていると答えているが、より適切な形で挨拶ができるように指導を図りたい。	立哨指導等で教職員から、より積極的な声かけを継続的に行う。
進路指導	進路目標の明確化	1年次から自己発見・進路探究の学習活動を通して、具体的な進路目標を設定させることにより、主体的に学習に取り組ませ、進路実現へ向けた努力を促す。	進路に関する情報ペーパーを年間3回以上発行し、進路についての関心を高める。	A	各学年の情報ペーパーを4~5回発行した。他学年の話題にも触れ、保護者にも生徒の活動がわかるように工夫した。ホームルームで担任が取り上げやすい内容をもう少し考える必要がある。	学期末を中心に発行しているが、学期最初や途中の意識付けにも利用する。
	進路に関する情報提供の充実	各ステージにおいて必要となる進路情報を検討し、適切に提供する。	生徒アンケートの「進路に関して十分情報提供されている」の項目で、肯定的な意見9割を目指す。	B	昨年度に比べて、肯定的な意見は10ポイント以上の上昇が見られたが、9割には届かなかった。一方で、保護者アンケートでは2ポイント程度の減少となった。生徒と保護者の意識のずれは進路選択する際に大きな弊害となるため、確実な情報共有を進める。	行事への保護者参加の呼びかけや事後アンケート、報告を適切に行う。

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策	評価指標	自己評価 結果 ※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等		
地域・保護者との連携	開かれた学校づくり	オープンキャンパスの円滑な運営を、各分掌、学年と連携して行う。またホームページ等による広報活動の充実に努める。	オープンキャンパスにおける参加者対象アンケートで、「大変よかった」と回答した生徒・保護者等の割合が昨年度(79%)を上回る。	A	オープンキャンパスの順延にも拘わらず円滑な運営が行えた。アンケート結果「大変良かった」「良かった」の回答が96%で数値的には満足している。	各式典の円滑な運営のため学年、分掌と連携の充実に努める。		
	学校評価の活用	各種アンケートを活用して、学校改善に役立てる。	保護者アンケートの回収率を昨年度(77%)を上回る。	B	A	回収率は72%であった。三者面談時の配布、回収方法を改善する。	アンケート結果の活用、改善策の具体化に努める。	
	育友会との連携	育友会が作成する新聞を発行するとともに、育友会活動への参加を促進する。	各専門委員会が主催する行事への参加者数1割増を目指す。	A	A	行事への参加が前年に比べ活発になり、2割ほど増えた。	育友会活動、同窓会活動にスムーズに対応したい。	
防災	安全教育・防災体制の充実	避難訓練及びシェイクアウトを実施し、防災教育の充実に努める。	避難訓練を年1回必ず実施するとともに、シェイクアウトも実施する。	A	A	避難訓練、シェイクアウト及び消防設備使用訓練を実施。生徒の防災教育の意識向上になった。	災害等がいつ起きても対応できるよう普段から命を守る教育が必要。	
人権・特別支援教育	人権意識の向上	ハートフルクラブと生徒会人権委員会を中心に、西和養護学校との交流や人権集会等の活動に主体的に取り組むことで、人権教育活動の推進役として生徒全体の人権意識の向上に努める。	生徒アンケートの、「いじめや差別のない学校」と答えた生徒が9割以上である。また、保護者のアンケートの、「人権に関する適切な教育が行われている」と答えた保護者が8割以上である。	B	B	生徒アンケートの、「いじめや差別のない学校」と答えた生徒が83.7%であった。また、保護者のアンケートの、「人権に関する適切な教育が行われている」と答えた保護者が84.1%であった。	生徒・保護者のアンケート結果等からの少数派の意見を尊重し、一人ひとりを大切にしたい方策を講じる。	
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	支援を必要とする生徒の把握を行うとともに、生徒や保護者を対象としたカウンセリングを適切に実施する。	スクールカウンセラーの来校日についての広報や連絡を確実に実施する。	B	B	生徒アンケートの、「生徒の悩みや相談に応じられる学校」と答えた生徒が79.3%であった。	本人・保護者との連携をさらに図り、教育相談やカウンセリングの充実に努める。	
健康管理	体力向上と健康管理	保健体育の授業を通して、また、運動部活動を通して体力の向上と健康管理意識の向上を目指す。	新体力テストで、校内平均が2種目以上が奈良県の平均程度まで引き上げる。	A	A	各学年男女とも、2種目以上県平均を上回った。	ハンドボール投げを県平均程度まで引き上げる。	
	食育の推進	朝食の必要性を認識させ、その定着を図る。	保健だよりを毎月発行する。生徒アンケートの、「必ず朝食をとる」と答えた生徒が8割以上を目指す。	A	A	保健だよりは、毎月発行することができた。「必ず朝食をとる」と答えた生徒が8割いた。	保健だよりは継続して発行する。朝食をとる生徒の8割を維持するために、いろいろな機会に啓発する。	
情操教育	環境美化意識の向上	生徒会美化委員による、月1回の通学路清掃及び11月の校門前の落葉清掃により自主性を育てるとともに、環境美化に対する意識を向上させる。	美化委員会を年3回開催する。通学路清掃への参加徹底を図り、参加率10割を目指すとともに、クラブ員等による参加者率8割以上を目指す。	A	A	美化委員、美化係の各種活動は生徒の活動意欲がかなり見られ、クラブ員の参加は8割以上であった。ただ、普段の生徒一人ひとりの美化意識が乏しいように思う。	自らが愛校心を普段から持てるよう、毎日の細かな指導が必要。	
	文化行事の充実	文化祭における展示・発表等の内容の充実に努める。	文化祭についての事後アンケート(職員・生徒)で、肯定的な意見8割を目指す。	A	A	文化祭について去年より積極的な生徒の取り組みが見られ、意欲的な舞台発表や参加が見られた。また、展示においても質の向上が窺えた。さざんかホールでの文化部発表及び芸術鑑賞会は好評であった。	内容決定のHR実施の前に教員対象の打ち合わせや生徒対象の研修を引き続き実施する。	
	生徒の自主的な活動の活性化	地域との連携を図り、社会参画の意識を向上させる。	募金活動、周辺地域や小中学校との交流や協働行事、県主催行事について、年10回以上の参加を目指す。	募金活動、周辺地域や小中学校との交流や協働行事、県主催行事について、年10回以上の参加を目指す。	A	A	台風被害による義援金の募金活動、近隣小中学校とのあいさつ運動、中学生議会の司会、吹奏楽部・バトン部・家庭クラブなどが地域との交流を行った。	生徒の負担が大きくなり過ぎないように、たくさんの参加要請の中から精選して活動していく必要を感じた。
		生徒会主催行事や、文化図書部との共催行事である文化祭を、生徒が主体的に活動・運営ができるように指導する。また、毎週定期的に生徒会役員打合せをもつ。	生徒会主催行事や共催行事についてのアンケートにおいて、主体的に参加できた生徒8割以上を目指す。	生徒会主催行事や共催行事についてのアンケートにおいて、主体的に参加できた生徒8割以上を目指す。	A	A	文化祭、球技大会、清掃活動、あいさつ運動、野球・サッカーの応援、募金活動など主体的に参加し、運営に協力したが91.4%であった。	各行事の事前準備早くする。
読書活動の定着と文化講座の充実	読書週間に役立つお薦め本の紹介をする。また、文化講座を開催し、幅広く文化や伝統についての意識の向上を図る。	文化講座を年間2回開催する。	文化講座を年間2回開催する。	B	B	年2回実施している文化講座への意欲的な参加には至らなかった。また、読書への関心を高めるには不十分であった。	文化講座への積極的な参加や読書意欲を駆り立てる方策をとり、読書感想文コンクール等への応募を紹介する。	

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策	評価指標	自己評価 結果 ※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等
第1学年	学力の向上	より高い学力を身に付ける進路目標を実現するために、粘り強く努力する生徒を育てる	家庭学習の習慣を確立させ、希望者受験の模試について半数以上の者の受験を目指す。	B	B 家庭学習が皆無の生徒もいた。また、希望者受験の模試の半数以上の者の受験を目指すという目標の達成については、及ばない結果になった。 時間の厳守、挨拶の励行、適切な言葉遣いなどは、ほぼ達成できた。しかし、携帯電話の不適切な使用があった。	HRや学年集会、授業等のあらゆる場で、家庭学習の重要性を説き、その習慣の確立をめざす。 携帯電話の適切な使用について、より強力な指導方法を検討し実行する。
	規範意識の向上	時間の厳守、挨拶の励行、適切な言葉遣いなど、規律を守り、集団での自己の責任を果たすことができる生徒を育てる	各学期に1回以上の学年集会を開くとともに、朝と帰りのホームルーム活動等を通して規範意識の向上に努める。	B		
第2学年	規範意識の定着と規律正しい学校生活の確立	望ましい生活習慣を確立させ、学習を中心とした規律ある生活をさせることにより、自己指導能力の育成を図る。また規範意識の定着を図るため、社会的マナーを身に付けさせ、健全で活力ある学校生活を送らせる。	生徒アンケートにおける規範意識に関する項目の肯定的意見の平均が8割を目指す。	A	B 生徒意識調査において「挨拶」「言葉遣い」「身だしなみ」を正しくできていると答えた生徒はそれぞれ約9割にのぼる。ただ、評価指標にはないが、学習面で家庭学習の時間がかなり少ない結果が出ている。 コーナス参加者が1学期と比べ2学期は倍増したが昨年より減少している。また理系に比べ文系生徒の参加が少ない。進学に向けた意識付けが必要である。	生徒自身評価は高いが、「言葉遣い」の面では気になる面があり、日常の指導が必要である。また学習面では進路目標を設定させ、学習する意義・目標を立てるよう指導する。 教員より積極的な働きかけと生徒に早期から進学に向けた取組の必要性を認識させる。
	進路学習の充実	進路に関する情報をタイムリーに提供し、将来の目標の実現に向けた計画を立てさせる。	実力養成講座に積極的に参加させる。	C		
第3学年	進路希望の充実	進路目標の実現に向けて、主体的に学習に取り組む自律的な生徒を育成する。また、最終学年として、他学年の模範となるような責任ある行動をとることができる生徒を育成する。	進路については、9割以上の生徒が第一志望の進路を実現することを目指す。	B	B 自己の進路目標の実現に向けて、主体的に学習に取り組む積極的な生徒が多く見られた。ただ一方では確たる目標を定められず、成績が伸び悩む生徒もいた。第一志望の進路実現は現時点で約8割である。	第一志望の進路実現に向けて努力を続けている生徒には、よりきめの細かい指導を行う。
学校関係者による評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価に関して数値目標も設定されており、その達成度で評価されているのは分かりやすい。多くの授業改善も試みられており、PDCAサイクルを回していくことでの改善も期待できる。</li> <li>目標を細かく設定して取り組む姿勢は素晴らしいことと受け止めるが、働き方改革の観点から業務の精選も必要かと思う。教育に携わることの喜びが持続できるよう見直しを進めてほしい。</li> </ul>				
※ 自己評価結果について… 評価基準 A 90%以上(十分である) B 70%以上(ほぼ十分である) C 50%以上(あまり十分でない) D 50%以下(改善を要する)						